

一般社団法人 北師同窓会

## 「将来検討委員会のまとめ報告」



令和5年 5月14日

令和5年度 一般社団法人北師同窓会定時総会

## I. はじめに

一般社団法人北師同窓会は、平成30年度に「将来検討準備委員会」を立ち上げ、北師同窓会の将来像を検討した。

準備委員会では、北師同窓会がさらに魅力のある組織として発展していくための見直しを図られた。また、北師会館については、会員の心のよりどころであるとともに、女子寮等で収入を得られる場として機能させることが重要と考え、資産としての価値と将来的な負担のバランスを図っていくこととした。

準備委員会の報告(一般社団法人北師同窓会将来検討準備委員会まとめ)を受けて、令和2年度からは、「将来検討委員会」が北師同窓会の運営や北師会館の在り方など当面する課題について検討を重ねてきた。新型コロナウイルス感染症が拡大する中での検討となったため、喫緊の課題に絞った検討とならざるを得なかった。そのまとめをここに報告したい。

## II. 将来検討委員会の概要

### <将来検討委員>

委員長	谷山 正司 (会長)		
副委員長	(故) 鈴木 文夫 (同期代表理事)	植村 敏視 (副会長)	
委員	塚野 昭臣 (北師会館館長)	富川 浩 (前専務理事)	

### <将来検討委員会設置の理由と目的>

#### (1) 設置の理由

一般社団法人としての本会の運営上、組織や組織運営、収支、北師会館、事業内容等に様々な課題があり、「将来検討準備委員会まとめ」(平成31年4月15日)を定時総会で報告した。その課題のうち、収支に関すること、北師会館の在り方について等が喫緊の課題であり、その対策についての検討が必要である。

#### (2) 設置の目的

「将来検討準備委員会」のまとめを受け、これからの本会の持続可能な在り方について、特に課題となっている事項について更に検討を進め、具体的な方策を打ち出すことを目的とする。設置の期間は、令和2年9月から令和4年9月までとする。

#### 【主な検討課題】

- ① 会員減、収入減への対応
- ② 北師会館の今後の在り方について
- ③ 将来を見据えた安定した予算執行の検討
- ④ その他、準備委員会で俎上に上った課題

### Ⅲ. 検討事項に関する報告

将来検討委員会では、準備委員会の報告を受けて、計4回にわたって、主に以下の項目について検討した。

- (1) 会員減、収入減への対応（会員数確保への取組）
- (2) 北師会館の今後の在り方について（老朽化対策、存続か売却か）
- (3) 将来を見据えた安定した予算執行の検討（支出減への取組、公益目的支出計画）
- (4) その他、準備委員会で俎上に上った課題（地区の統合について）

北師同窓会の会員数は平成23年度の2,716人から減少傾向にあり、令和3年度は1,866名まで減少している。会員数の減少は、会費収入の減少に直結し、同窓会活動や運営に大きな影響を与えるものである。特に北師会館の維持については、寮費収入だけではなく、同窓会収入も財源となっているため、優先すべき課題として、売却か存続かについて検討した。

平成4年に竣工した北師会館は、築30年となったが、「女子学生会館」を併設し、北師同窓会の活動の拠点として機能してきたことから、その存在価値は高く、北師会館（女子学生会館を含む）は、売却せず今後も存続していくべきではないかという立場からは、そのメリットとデメリットについて検討した。

メリットとしては、女子学生会館の寮費や貸室収入は大きな収入源となっており、また、資料室や本部事務局としての機能があることが挙げられた。デメリットとしては、築30年を経て今後資産価値が減少していくことや、修繕費用がかさむことなどが挙げられた。売却した場合の新たな資料室、事務局本部の確保等の問題も挙げられた。

また、北師会館を売却して、その収入を、公益目的支出計画の今後の支出の財源に当てられないか、ということについても検討した。これについては、道庁総務部法人課や司法書士などとも相談した結果、売却した収入は公益目的の収入となり、公益目的財産額の大幅な増加となって、現在実施している公益目的支出計画の大幅な延長となることが分かった。

これらを踏まえ、将来検討委員会は、北師会館の存続を前提として、以下の内容について検討した。

#### 1. 会員減、収入減への対応

- 会員減、収入減への対応として、本部会費の変更は行わない。
- 会員の確保や新入会員の獲得に関して、新たな事業の検討やこれまでの事業の見直しを行う。
- 本部が保有する同窓生名簿等のデータや各種資料等を地区と共有・活用し、会員増や同窓会活動の活性化につなげていく。

会員減、収入減への対応については、各地区に大変ご苦勞いただいている。特に会員の減

少の要因としてOB会員の高齢化や新規採用者の減少傾向が挙げられる。卒業生の多くは都会志向が強く、地区によっては新採用者がいない場合も出てきているのが現状である。

会員のほとんどが教職員である北師同窓会は将来の少子化傾向などを考慮すると、会員数・会費収入の減少に伴う会費の値下げや値上げについては、将来の北師同窓会の安定した運営を図っていくためには大きな検討課題ではある。しかし、若い会員の負担軽減や会員増を目指す値下げ案は、すぐ会員増につながるとは考えづらく、また、会費収入の増加を見込んだ会費の値上げ案も、現状では厳しく、長い目で見た場合、収入減への対応策として効果は少ないと考え、現時点では本部会費の変更を行わない方向で対応すべきとした。

会員の確保や新入会員への働きかけについては、各地区の取組・活動に負うところが多く、本部と各地区の連携が今後大切になってくる。令和4年度に実施したオンラインによる「地区交流会」など、連携を深める取組が今後も求められると考える。

今後、学生に同窓会の活動を知ってもらう取組として、ホームページの活用・工夫が考えられる。例えば、研究室や同期会のコーナーなどを設けたり、オンラインによる講演会や学習会などを実施したりすることも考えられる。このような取組を通して、北師同窓会が学生にとって身近な組織ということを意識してもらい、卒業式当日の入会につなげていきたい。

また、大学との日常的な連携を大切にして、学生に大学在学中(入学式などを含め)から同窓会を理解してもらうための工夫が必要であり、新卒の同窓生に「純剛」や「北師」などの配布や採用者向けの冊子の発行などが考えられる。そのためにも、学生と同窓会を繋ぐ大学との人脈をつくる日常的な関わりを探っていく。

現在、各学校、職場の同窓の繋がりは、年々希薄になってきているという声を聞く。そこで、同窓の意識を育む取組を、日常の活動を通して図っていかなければならない。その際、地区の活動には、卒業生の名簿の情報は重要である。本部として、卒業生の名簿をデータ化して活用することが考えられる。個人情報保護などの事情から、大学や各学校との人事に関するパイプが弱くなってきている。状況の中で、今後の同窓会活動の充実発展を図っていくためには、会員に対する広報活動や情報提供の在り方が重要であり、そのためにも、各学校、職場の同窓会員との繋がりを図る人材が重要である。各学校や職場が円滑に同窓会事業に取り組んでいく一助として、本部や地区の活動に生きるデータの活用を考える。

また、長年同窓会のために活動・協力いただいているOB会員への働きかけについては、同期代表の方々などが中心となって取り組まれている。現職会員も含め、今後も同期の活動や取組に対する協力の在り方や支援についても探っていく。

## 2. 北師会館の今後の在り方について

- 北師同窓会の活動の拠点として、売却せず今後も存続していく。
- 女子学生会館として、今後も多くの後輩たちに貸し出していく。
- 公益目的支出の財源を有効に活用し、資産としての北師会館の維持、修繕に努める。
- 多くの会員、在校生、地域に対して、北師会館の活用を積極的にPRしていく。

北師会館の大きな 2 つの機能として、北師同窓会の本部機能、女子学生会館としての学生支援機能が挙げられる。

北師会館は、北師同窓会の活動の拠点として現在、地区と本部との連携の窓口として本部事務局機能を果たすとともに、同窓会会誌「北師」や機関紙「純剛」などの資料、過去の同窓会名簿や同期会の会誌、各地区の活動資料、また、「六改訂版学校経営研修資料集」、「四改訂版学校教育基礎研修資料集」などの研修資料集を保管する同窓会の資料室でもある。

北師会館は北師同窓会の精神的な拠り所でもあり、同窓会の貴重な資料やOB会員の美術作品、書などは同窓会員の大きな心の支えでもある。そういう意味からも、北師同窓会の会員の「心の拠り所」として、北師同窓会のシンボルとしても会館は存続していかなければならない。

また、北師会館は、札幌校の移転に伴い、あいの里地区に女子学生寮がなかったため、北師会館移転の条件として、女子学生会館の併設があった。当初は6室6名定員であったが、現在は7室7名定員となっている。女子学生会館は学生の学校生活支援をするとともに、その寮費収入は同窓会にとって貴重な財源にもなっている。会館の状況や存在意義などをホームページで紹介しているが、学生にとってより身近な存在となれるようにさらに工夫していく必要がある。

今後、北師会館（女子学生会館を含む）の安定した存続のためには、地域の活動も含めて多くの人に活用してもらう手立てを考えていかなければならない。また、女子学生会館のよさについても、利用者も含めて学生などに伝えていくことも大切である。そのためにも、先を見通した会館の姿を明らかにし、本会の収支に見合う計画的な改修等を行い、会館の維持存続に努めていかなければならない。

### 3. 将来を見据えた安定した予算執行の検討

- 女子学生会館の満室の確保や会館貸出事業などのPRを行い、収入の安定を図る。
- 収支のバランスを考えて、現在の事業内容や形態等を見直し、経費の縮減を図る。  
特に、公益目的支出計画完了までの流動資産の確保には留意する。
- 今後、北師会館の維持修繕のための支出が増えることが想定されることから、その財源となる公益目的支出計画については、随時支出の重みづけを見直していく。

北師同窓会は、「会員相互の研修・親睦を図り、北海道教育大学の教育研究の支援に関する事業を行い、北海道の教育文化の振興に寄与すること」を目的としている（定款第3条より）。北師同窓会は長年、公益法人として活動してきたが、平成20年の「公益法人制度の改革に関する法律」の施行を受けて、平成25年度から「一般社団法人北師同窓会」と変わったが、同窓会設立当時から、長年にわたって、北海道の教育文化の振興に寄与する活動を続けてきた。

特に公益目的支出計画実施に当たっては、寮費の安定した収入を目指し、多くの女子学生に利用してもらえるようなPRが必要であると考えます。寮生募集のパンフレットやホームページの工夫、大学構内における広報活動が大切である。また、地域に対しても、会館の活用などの広報活動も日常的に取り組んでいく必要がある。

現在は、これまで蓄えてきた「公益目的財産額」を、移行法人としての支出計画に沿って、北師同窓会の活動をしている。今後も公益目的支出計画に基づく活動と同窓会活動のバランスを取りながら、活動を行っていく必要がある。北師会館の運営を含め本部活動と地区活動の連携が今までと同様に重要であり、そのためにも日常的に相互のコミュニケーションが円滑に図られる手立てを考える。

本部は、一般社団法人(移行法人)として、公益目的支出計画が完了するまで、支出計画に沿った活動の実施を図っていかなければならない。北師会館の運営、特に女子学生会館の運営を中心として寮費収入、会費収入等を含め、収支のバランスを取りながら、「公益目的財産額」を執行し、公益目的支出計画完了までの見直しを持つことが重要である。

経費縮減という観点から、全ての事業に対して見直しを図っていくことが必要である。

#### 4. その他、準備委員会で俎上に上った課題

- 現時点では地区の統合は行わないこととする。
- インターネット、ホームページやオンライン会議等の活用を通して、地区へのサポートを強化する。

地区の統合については、新卒者や新入会員の減少、また管理職の減少などから、いくつかの地区から課題として挙げられている。また、会員数の減少や会員の高齢化などで、十分な活動ができていない地区も多くなってきているということも耳にしている。しかし、現状では、地区の歴史や会員の思い、様々な取組を考慮し、地区の統合は行わないのが望ましいと考える。本部には、引き続き各地区との連絡を大切にしながら、より実効的なサポート体制を築いて、今後の状況を見守っていただきたい。

コロナ禍でオンライン会合が増え、その有効性を感じている。オンライン会議の活用は、地区ではなかなか集まれなくてもオンラインで会合を開くことができる。また、何回かはオンライン会合で集まり、集まれるときに会場で顔を合わせることも考えられるので、今後の活用性や有効性、問題なども明らかにして、これまで以上に、インターネット、ホームページ、オンライン会議等の活用を図っていくべきであると考えます。

#### IV. 終わりに

一般社団法人北師同窓会はこれからも、同窓生を支える柱としての存在であり、母校としての大学や附属学校の教育研究等を支援しながら北海道の教育文化の振興に寄与していく。

また、北師同窓会は自己研鑽を進める研修の場を保証し、純剛の絆のもと信頼し合える先輩、後輩の関係構築を図っていく存在でもある。この報告が、北師同窓会の今後の活動や運営等指針、一助となることを願ってやまない。